

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和3年度 岐阜県立関有知高等学校 学校運営協議会 (第1回)
  - 2 開催日時 令和3年7月9日(金) 9:30~11:30
  - 3 開催場所 関有知高等学校 会議室
  - 4 参加者  
委員長 丹羽 章 中部学院大学 事務局長  
副委員長 平田 昌隆 下有知中学校 校長  
委員 田中 雄貴 関青年会議所 理事長  
平田 尚 しもうちふれあいまちづくり協議会 委員  
山田 あつ子 特別養護老人ホーム ハートフル 施設長  
木村 有希 下有知保育園 主任保育士  
北村 隆幸 せき・まちづくりNPOふうめらん 代表理事
- |     |               |
|-----|---------------|
| 学校側 | 谷口 正明 校長      |
|     | 堀 卓也 教頭       |
|     | 中藪 淳 事務長      |
|     | 大野 広行 総務部長    |
|     | 名和 憲一 教務主任    |
|     | 福山 美苗 生徒指導主事  |
|     | 原 和幸 進路指導主事   |
|     | 水阪 文恵 生活福祉科主任 |
|     | 辻 祥平 特活係長     |
|     | 横山 玄斗 記録      |

### 5 会議の概要(協議事項)

- (1) 校長挨拶
- (2) 自己紹介
- (3) 学校運営協議会趣旨説明

- ・本校は、令和元年度から学校運営協議会を設置し、学校運営協議会委員の意見を学校運営に反映させている。
- ・令和3年度の大きな目標の一つがスクール・ポリシーの策定である。第2回で学校としての案を示し、第3回においてスクール・ポリシーの承認を得たいと考えている。

- (4) 学校運営、学校組織、教育課程の説明

## 学校運営

- ・高等学校版マニフェストにある「演劇ワークショップ」を本日実施している。

## 学校組織

- ・学校組織について、本年度入学生より従来の「生活福祉科」ではなく「生活デザイン科」に学科名を変更した。

## 教育課程の説明

- ・本校で大切にしたいことを基に、昨年度から計7回の教育課程委員会を実施し、来年度入学予定の新教育課程を策定した。特徴としては、進路実現に向けて考える時間を確保するために1・2年次の時期には幅広く学習できるように科目を設定した。また、いずれは誰もが就職することを前提に「ビジネス基礎」「地理探究」を設定し、ビジネスマナーを身に付けたうえで地域を支える地域社会人の育成に励むことができる教育課程になっている。

## (5) ICTを活用した授業ならびに演劇ワークショップ等の見学

## (6) 地域連携活動について～地域の暮らしと仕事、文化を守る地域社会人の育成を目指して～

- ・学校見学会の実施（10月3日、11日）
- ・関有知ジモト大学の実施（特定非営利活動法人「せき・まちづくりNPOふうめらん」のご協力により実施）  
本年度は、説明会を既に実施し、5回の課題研究を経て1月末に発表会を実施予定。
- ・スクール・ポリシーの策定に向けて

## (7) 委員からの感想・意見等

意見1： 地元の就職率が他校に比べて高いため、地域の暮らしや文化を継承していく地域社会人を育成するという方向性は大いに賛同できる。

意見2： 自分が行動することによって世の中を変えられる意識を持たせ、実践力を養うことのできる内容を盛り込むと良いのではないかな。

意見3： ICT教育のすばらしさに驚いた。かつて机間指導で赤ペンをつけていたものが、画像を一覧にして比較しながら直接チェックできることに感動した。

意見4： 自身の仕事においても、コミュニケーション能力はとても重要である。社会人として必要なコミュニケーション能力を養うことの出来る演劇ワークショップは非常に有意義である。

意見5： 演劇ワークショップの中で、講師の先生が生徒の変化を感じ取っていたが、発言しやすくなる雰囲気づくりをされていた。コミュニケーション力はどの仕事でも大切だが、その大切さを体験できる授業だと思う。

意見6： 生徒がきちんとしており、しっかり挨拶ができる。演劇ワークショップでも積極的に意見が出ており感心した。

関有知ジモト大学では、課題研究をしていく中で、生徒が興味を持つ内容を出していくことが大事ではないか。そうした研究が継続的にできるとよい。

意見7： 地域の問題を自分の事として考えられる生徒を育成してほしい。今の時代だけではなく、将来必要とされてくることを考えていくことも必要ではないかな。

コロナ禍の中で、マスクをしていても相手の感情を理解し、自分の感情を伝えるコミュニケーション能力はより大切になっている。カリキュラム・ポリシーには、「先生たちの姿勢」も反映されるものではないか。

意見8： 授業を見たが、とても集中している生徒たちの姿に、先生方の指導の成果が見られる授業風景だった。

タブレットの利用について、家庭学習に使用している学校もある。異校種間での連携が重要である。現在は「ICTを使うこと」に意識が向いているが、今後は、道具とし

て「どう活用していくのが適切か」を考えていくことになる。その際、「身に付ける力」がキーワードになる。

意見9： 地域とつながり地域を支えていく人材を育てていくために地域の課題を知り、解決していくような地域と連携したカリキュラムを考え、カリキュラム・ポリシーの中にその要素を含めていくことが大切である。

3年間で生徒たち自身にいかにか付加価値を付けられるか、生徒に何が身についたかが重要である。3年間の学習成果に何を求めるか、何を大切に3年間育てていくのかをカリキュラム・ポリシーに盛り込むことが大切である。

ほめちぎる指導というのがあるが、3年間で自己肯定感を高められるような指導をすることが大切である。

## 6 会議のまとめ

第1回学校運営協議会では、本年度の学校運営基本方針について説明し、全委員より承認を得ることができた。